

還付金詐欺に注意！ATMでは還付金はもらえません！

相談事例 「役所の職員から『書類を以前送ったが返却がされていないので電話した。2万8千円の還付金があるが期日を過ぎていたので書類では手続きできない。しかし百万円以上の残高がある口座なら信用性が高い口座とされ、振込が可能である。今ならATMで還付金の手続きができる』と電話があった。言われた通りスーパーのATMに行き、指示された番号に電話をし、担当者の言った暗証番号982337を入力し操作した。還付金が入ったと思い、後日記帳してみたところ98万2337円が他人の口座に振り込まれ、残高が無くなっていた。」

このような還付金詐欺の相談が全国の消費生活センターに寄せられています。1度振り込んでしまうと、お金を取り戻すことは非常に困難です。

「お金が返ってくるのでATMに行くように」という電話は還付金詐欺です。決して相手にせず、すぐに電話を切ってください。

※役所などの公的機関や金融機関などの職員がATMに誘導することはありません

※銀行ではなく人目の付かないスーパーのATMに誘導するケースが見られます。

お金が返ってくるなど不審な電話があったら、すぐに警察か消費生活センターにご相談ください。

問合せ 松伏町消費生活センター(環境経済課内) ☎991-1854

➔ 人権それは愛♡

今月は「松伏町小・中学校人権作文集-第19集-」の作品の中から小学校2年生の作品を紹介します。

「からだのふじゆうな人」

わたしは、からだや目がふじゆうな人を見かけます。たまにおかあさんに、「どうして、ぼうをつかっているの。」とききます。「目がふじゆうな人は、ぼうをつかっているのよ。」と言います。

わたしはじぶんにできることはないかなとおもいました。こうえんにいったかえりにめがふじゆうな人を見かけました。わたしは、おもいきって、「だいじょうぶですか。手をもちましようか。」とききました。目がふじゆうな人は、「ありがとう。」といってくれました。そして、わたしはその人のいえ

までつれていってあげました。わたしはこえをかけるとき、とてもドキドキしたけど「ありがとう。」のことばできもちがおちつきました。わたしは「ありがとう。」のことばがとてもうれしかったし、その人もニコニコしていたので、目がふじゆうでもことばはつたわるし、こころもつながっているんだなおもいました。

わたしは、もっともっとびょうきの人や目がわるい人に「だいじょうぶですか。」といって、こまっていたらおてつだいをしたいです。

この人権作文は、児童・生徒のみなさんに、人権や差別について考えていただき、他人の心の痛みがわかる、差別のない・許さない・見逃さない人になってほしいと願って作成されています。

問合せ 教育文化振興課 ☎991-1873 企画財政課 ☎991-1815

町長コラム

ま 日本文化と間

～ 程よい距離で良好関係 ～



鈴木 勝

最近、テンポの速い漫才が流行っている。しかし、ひと昔前はボケ役が相方から突っ込まれて何も言えなくなってしまう「間」で観客を笑わせていた。落語にも「間」の文化があり、顔芸で観客を魅了する。日本の国技である相撲は、何回かの仕切りの後に勝負となり「間」が存在する。野球も、バッターとの勝負において、一球一球に「間」があり、その中に駆け引きが存在し、観客を夢中にさせる。

しかし、サッカーは試合が始まると、反則やボールがラインから出ない限り「間」が生じないため、ビールを飲む「間」がなく、販売会社が撤退してしまうという話を聞いたことがある。

人という字は「人と人が寄り添っている」形からできていると、よく説明される。人間という字には「間」がある。近づきすぎず、離れすぎず、という感覚が必要であると考えられる。ヤマアラシのジレンマという心理学の用語がある。近づこうと寄り添うと、お互いのトゲトゲが刺激し合い、痛みを感じてしまうという意味である。人も、そこその間(距離)をとることによって、人間となり、様々な文化を創造していくのであろう。